



## 第9回 「卵のふしぎーその細胞培養技術としての先進性ー」

日時	2021年11月28日（土） 14時00分～15時30分
講師	松田良一 東京理科大学大学院 理学研究科 科学教育専攻 教授
講義概要	<p>普段、何気なく料理し、食べているニワトリのたまごから生物の進化について考えてみましょう。</p> <p>まず、たまごの出来方。鳥類は左の卵巣だけを使って、たまごの「もと」を作ります。さらに、卵黄の蓄積、排卵、受精、卵白の付加、卵殻膜と卵殻の付加後、卵が産み出されます。</p> <p>続いて、たまごの構造。卵白に含まれる抗菌物質の数々。卵殻膜や卵殻も無菌環境を維持しながら、ガス交換できる素晴らしい機能を持っています。</p> <p>人間は百年前から細胞をガラス器内で培養できるようになりましたが、ヒヨコ1羽分の細胞を、これだけの狭い空間の中で培養し、組織を構築させ、個体の形成できる性能をもった細胞培養装置は、まだまだ出来ません。それほど、たまごは先進的な進化の産物なのです。数億年の歴史をもつ「たまご」に学ぶ所は大です。</p>